

北 九 州 市 要 望 事 項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>1 地方創生の推進</p> <p>・定住・移住促進における取組</p> <p>・国家戦略特区における取組</p>	<p>本市におきましては、平成27年10月に「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。その後、産官学金労言住のオール北九州で構成する組織で、主体的かつ積極的な取組を行っていく行動宣言を採択するなど地方創生の実現に向け地域一体となり尽力しているところです。</p> <p>このような中、国におきまして創設された地方創生関連交付金を本市では積極的に活用させていただき、本市の地方創生に資する以下の事業に取り組んでおります。</p> <p>首都圏等におけるアクティブシニア層の移住促進を目的とした「北九州市版生涯活躍のまち」形成におきましては、昨年12月に国から地域再生計画を認定いただき、具体的な取組として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏における移住相談窓口やセミナーによる魅力発信や「お試し居住」の実施 ・「シニア・ハローワーク戸畑」との連携による「セカンドキャリア支援プロジェクト」 ・街なか住宅の取得・賃借費用を一部補助する「住むなら北九州 定住・移住推進事業」 <p>等、受入れ体制の整備を進めているところです。</p> <p>これらの取組により、昨年8月の「田舎暮らしの本」において「50歳から住みたい地方ランキング」第1位との評価をいただき、また、首都圏等での移住相談件数も着実に増えつつあるなど、本市への移住に向けた機運の高まりを感じているところです。</p> <p>国家戦略特区におきましては、産業の国際競争力の強化や、国際的な経済活動の拠点の形成を促進する観点から、「岩盤規制」改革の突破口として、大変意義がある制度であると考えております。</p> <p>本市では、これまでに7つの特例を活用し、13の事業に着手しており、全国で初めてとなる特区を活用した「介護ロボットの実証実装」や、「シニア・ハローワーク戸畑の設置」により就職率が30%も向上するなど、先進的介護・高齢者活躍の拠点を形成するとともに、「エリアマネジメントの民間開放」、「ワイン特区」などにより、国内外の交流・インバウンドの増加も図っております。</p>

つきましては、本市の地方創生を加速させるため、地方創生関連交付金などの財政支援や、地域再生計画で位置づけたものが着実に実施できるよう今後ともご支援いただくよう要望します。

また、国家戦略特区におきましては、引き続き積極的に規制緩和の提案を行っていきたいと考えておりますので、国におきましても、これまで以上に強力に岩盤規制改革を進めていただきたいと存じます。

北 九 州 市 要 望 事 項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>2 北九州空港の機能 拡充・利用促進</p>	<p>北九州空港の機能拡充を通じて国内及び国際航空物流ネットワークの形成・充実を図ることは、ものづくり産業の集積が進む北部九州圏の経済活性化や広域的な物流拠点形成のために、必要不可欠です。</p> <p>また、北九州空港は平成28年10月以降、相次ぐ国際線の就航により国際線旅客数が急増しており、また、平成29年7月の「訪日誘客支援空港」への認定を追い風に、今後国際空港として更なる発展を目指しております。</p> <p>これらの施策は、本市における地方創生施策の推進及び、国の「未来投資戦略」に盛り込まれた施策の実現にも資するものと考えています。</p> <p>そこで、北九州空港の機能拡充、利用促進について、以下の事項に特段のご配慮をお願いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大型航空機でも安定して離着陸ができるよう滑走路の3,000m化の早期実現 2 RESA（滑走路端安全区域）対策の早期実現 3 MRJ飛行試験の実現に向けた必要な協力 4 CIQ（通関・入出国管理・検疫）体制の拡充

北九州市要望事項

要 望 項 目	要 望 の 要 旨
<p>3 主要道路の整備促進</p> <p>・国道3号黒崎バイパス</p> <p>・都市計画道路 戸畑枝光線</p>	<p>北九州市は、西日本における物流拠点都市としての国際競争力確保に向け、港湾や空港、鉄道ターミナル駅等の拠点整備を進めてきましたが、それらの相互連携を図るためには、道路整備は不可欠です。</p> <p>国道3号黒崎バイパスは、本市の副都心黒崎の再生、地域産業の振興、安全で快適な地域環境の改善に欠くことのできない自動車専用道路です。これまでに5.8kmのうち、5.2kmが開通し、国道3号の渋滞緩和、小倉都心部への速達性向上や新門司港・北九州空港等への物流の効率化が図られています。しかしながら、国道3号の現道や国道200号に未接続で、直轄国道のネットワークが形成されておらず、黒崎バイパスの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>黒崎バイパスの開通効果を最大限に発揮させるためにも、①「道路予算総額の拡大・確保」及び「早期全線供用のための本道路整備事業予算の確保」とともに、②「春の町ランプ、黒崎西ランプ及び陣原ランプの早期供用」が必要です。</p> <p>戸畑枝光線は、北九州都市高速道路、若戸トンネル、国道3号黒崎バイパスと一体となり、企業進出が進む響灘地区、戸畑区臨海部、東田地区等を結ぶ、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成する道路です。しかしながら、この環状部の戸畑枝光線がミッシングリンクとなっているため、自動車専用道路ネットワークの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>市内各拠点間の連絡を強化し、高速性・定時性の向上、市街地及び路線周辺地域における交通混雑緩和、都市高速道路ネットワークにおける代替ルートの確保、災害時の緊急輸送や救助救援活動の主要幹線道路網の構築を図るため、戸畑枝光線の早期整備推進が必要です。</p> <p>また、本事業は「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に基づき補助率の嵩上げ措置を受けていますが、平成29年度までの時限措置であるため、平成30年度以降も継続することを要望します。</p>

・連続立体交差事業を中心とした広域拠点折尾地区の整備促進

魅力ある地方の創生を実現するため、本市では、都市のコンパクト化の推進と周辺等との交通ネットワークの充実を図っているところです。

その中で北九州西部都市圏の中心核である折尾地区について、学園都市や北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい地域拠点の整備として、連続立体交差事業、街路事業及び土地区画整理事業を推進しています。

事業開始から10年以上が経過し、事業の進捗が実感できるようになりました。特に、平成28年度は、本事業初の高架切替となる鹿児島本線の仮線切替を予定通り実施するとともに、周辺の街路事業や土地区画整理事業も大きく進みました。地元では、新たなまちづくりと早期完成への期待が益々高まっており、引き続き、事業を確実に進捗させる必要があります。

事業は、ここ数年間でピークを迎え、平成30年度に筑豊本線高架切替、平成32年度に鹿児島本線切替及び新駅舎の開業を予定しています。

・下関北九州道路の早期実現

下関北九州道路は、北九州市と下関市の都心部を直結することで関門地域の一体的発展を支えるとともに、本州と九州を結ぶ大動脈である、関門国道トンネル、関門橋の老朽化への対応や代替機能を確保する、西日本地域の広域道路ネットワークを支える極めて重要な道路です。

関門地域が有するポテンシャルを活用し、更なる自立的発展を図っていくためには、地域間の交流・連携をより強固なものとし、地域の生産性の向上による国際競争力強化や、アクセス性の向上による観光振興などのストック効果を最大限発揮させるよう、道路ネットワークを充実・強化することが急務です。しかしながら、関門橋は供用開始から43年、関門トンネルは59年が経過しており、近年施設の老朽化に伴う補修工事や、悪天候、車両事故等による通行制限が頻繁に行われています。このため、関門地域における安定的な交通機能の確保、ひいては本州と九州の連絡強化が喫緊の課題となっています。

こうした地域のニーズや喫緊の課題に的確に 대응していくためには、「下関北九州道路」を早期に整備し、関門橋や関門トンネルと一体となって環状道路網を形成することにより多重性・代替性を確保することが必要不可欠です。

以上の主要道路の整備促進に向けた財源の安定的な確保につきまして、特段のご配慮を賜りますようお願い致します。